発行：2024.7.1（月1回予定）

RASHINBAN

No.172

羅針盤

発行：サイクラーズ株式会社
編集：サイクラーズ株式会社　大森オフィス
東京都品川区南大井6-26-3
大森ベルポートD館 8F
電話：03-6410-8797
URL：https://www.cyclers.co.jp/

Market Forecasts　by Y. san　-７月-

６月予測の自己評価　鉄スクラップ；×　銅；×　アルミ；×

鉄スクラップ →

6月の東京製鉄宇都宮の特級価格は51,500円／トンでスタート。26日に1,000円上昇し、28日時点では52,500円／トン。製品販売の低調、主要輸出先である韓国、ベトナムの現地需要が盛り上がりにかけている点から7月は横ばいでしょう。

銅 →

6月、LMEは10,000ドル／トン台からスタートし、小刻みに上げ下げを繰り返し28日時点は9,500ドル／トン台。国内銅建値1,570,000円／トン。円安に支えられ高値をキープ。7月は円安の進行、中国の景気悪化、欧州の株の変動から見て横ばいでしょう。

アルミ ↗

6月はLME2,660円台／トンでスタート。後半下落し28日時点2,500ドル／トン。7月は円安、半導体・液晶製造装置分野の持ち直しによる需要拡大から見て上がると思われます

産業廃棄物

相変わらず処分場の火災発生が多く、処理場の選別でも防ぎきれないのが現実。搬入量を制限すれば値上げに繋がり、物量は減ることになる。機械に投入する前の土間選別が重要。最近はAI活用で火災防止を行う会社も出てきて問い合わせも多いようです。

Topics

デコ活

～脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動～

今回は**デコ活**について、環境省デコ活のホームページから抜粋してご紹介いたします。

2050年カーボンニュートラル及び2030年度までの温室効果ガス削減目標実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするため、新しい国民運動**デコ活**を展開中です。

デコ活とは 2022年10月に開始した「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」の愛称であり、二酸化炭素（CO_2）を減らす（DE）脱炭素（Decarbonization）と、環境に良いエコ（Eco）を含む"デコ"と活動・生活を組み合わせた新しい言葉です。

暮らしが豊かになり、脱炭素などに貢献するアクションの例として、（ここでは紙面の関係で割愛しますが）13の**デコ活アクション**をホームページで紹介しております。

また、個人でも企業/団体でも**デコ活宣言**をすることができます。

デコ活宣言とは、以下の①、②のいずれか、または両方の**デコ活**に取り組むことを宣言するものです。

① 脱炭素につながる製品、サービス、取組展開を通じて国民の彩り豊かな暮らし（**デコ活**）を後押しします！

② 日々の生活・仕事の中で、**デコ活**（脱炭素につながる豊かな暮らし）を実践します！

デコ活宣言をした企業/団体は、**デコ活**ホームページの一覧へ掲載されます。

下表に示すように**デコ活**を冠した愛称を、関連する組織・制度・予算に付け、ワンメッセージで**デコ活**の普及を後押ししております。

愛称	組織・制度・予算
デコ活応援隊	環境省　脱炭素ライフスタイル推進室
デコ活応援団	新国民運動・官民連携協議会
デコ活予算	豊かな暮らしを後押しする関連予算すべて（令和5年度補正及び令和6年度）
デコ活ジャパン	全国地球温暖化防止活動推進センター
デコ活ローカル	地域地球温暖化防止活動推進センター
デコ活推進員	地球温暖化防止活動推進員

表中の1例として**デコ活応援団**についてご紹介します。

デコ活応援団とは、脱炭素につながる豊かな暮らしを実現するため、脱炭素施策について、国、自治体、企業、団体、個人の効果的な連携や意見共有を目的としてデコ活と同時に立ち上げられたプラットフォームです。**デコ活応援団**は、参画者間で協議し、以下のアクションを実施しております。

① デジタル活用や製品、サービスを組み合わせた新たな豊かな暮らしのパッケージ提案、機会・場の創出など消費者への効果的な訴求に向けた連携

② 各主体の取組で得られた知見・経験・教訓の共有とベストプラクティスの横展開

③ 政府施策への提案・要望（環境省普及啓発予算の具体的な使い道・アイデア等）

他にも、多くの**デコ活**関連の情報が下記環境省のホームページに記載されておりますので、是非ご覧いただければ幸いです。

https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/

Series

「小学5年・東北一周サイクリング」

サイクラーズ グループ戦略部
松村 拓紀

こんにちは！サイクラーズ　グループ戦略部　兼　チームサイクラーズスネルGMの松村です。今回より連載を担当しますのでお付き合いください。主に私自身の歴史を中心にご紹介いたしますが、先ずはやはり自己紹介からですね。

1977年神奈川県茅ケ崎市生まれ46歳、妻と子供3人（JK3年　JC3年小2男子）の5人家族の川崎市民です。趣味は、サッカー観戦（家族で川崎フロンターレサポ、海外サッカーも）トレイルランニング、ランニング、ゴルフ、スキー＆スノボ、旅行、キャンプ、料理、音楽（ロックステディからデジタルパンクまで洋楽全般）、サイクルスポーツ（主に観戦）等です。

小学生から社会人生活まで、様々な場面でお話ししたい出来事が多々ありますが、第1章の今号は若年期をご紹介します。

幼少期は読書が好きな内向的性格でしたが、小学校時代に始めたサッカーの影響で、徐々に外交的性格に転換（今でいう陰キャから陽キャへのキャラ変でしょうか）しました。友人と相模原⇒江ノ島まで自転車で遊びに行くような事もしていたり、母親の実家がある青森県まで一人電車で帰省したりとアクティブな低学年時代を過ごしました（道路に飛び出し車とぶつかり足骨折などもありました）。

その中でも大きなトピックスは小学校5年時に父親と行った自転車での東北一周でしょうか。 もともとは母親の実家（青森県八戸市）への帰省方法として、家族3人での自転車旅（片道）だったのですが、夏休みという事もあり私と父親はそのまま青森から日本海に回って新潟まで南下、そして、長野から相模原へ帰宅というルートで合計15日間、総距離1,500kmの東北一周でした。

発端は、母親がいつもとは違う方法で帰省したいという一言。そんなノリなのでもちろん事前準備は一切なし、何なら父親母親も運動経験ほぼなしの文化系。自転車自体もいわゆるガチなロードバイクではなく、ロードバイクチックなもの。ウェアもTシャツ短パンで、とても東北一周するような装備ではありませんでした。しかし小学校5年の少年には断る選択肢は持たされず…しかもルートだけは予め設定され、宿泊は事前にユースホステルを予約という行程（父親がテント泊を嫌がったという理由）、その為に必ず1日の移動距離は決められているという無慈悲なスケジューリングでした。今から35年ほど前の話なので当然スマホはもちろん携帯電話もなく、道間違えはあたりまえ、そもそも自転車に乗るのも嫌になり駄々をこねたりというシチュエーションもありましたが、何とか父親と予定通り完走しました。 いまだになぜ自転車で帰省しようと親が言い出したのかが全く理解できていませんが、勢いというものはすごいもので、とりあえずやってみるという事、また、やってしまえばできるという事を体験できたのは、今となっては非常に大きかったように感じます…そして今の自分自身を形成してるひとつである自転車競技に繋がるターニングポイントでもあったと思います。だからといってすぐに競技に目覚めたわけではないのが、天邪鬼な自分らしいところではありますが…

東北一周時、地図

東北一周時、父とのスナップ

次回は、自転車競技に捧げた青春時代についてご紹介したいと思います。（続く）